Vol.8　FE/PE 試験について（2009 秋）

2009 年秋のPE/FE 試験は、東京四谷の上智大学で実施された。ＰＥおよびＦＥ試験受験者数は近年実施した試験の中でも多い約90，190 名で、経済状況が低迷している中、一流の資格取得を目指そうとするエンジニアの姿勢が見て取れた。

FE試験会場

PE試験会場

試験は、ＪＰＥＣの上部機関である米国ＮＣＥＥＳから賞賛のメールを頂き、2010 年からはＪＰＥＣが試験の実施・管理の重要部分を担えることになるなど、上々の評価を得ることができた。それもこれも30名を超えるＪＳＰＥ ボランティアの方々の支援があってのことである。そのうち約10 名の方は遠方からの支援者で、九州、東北からも駆けつけてくれた。ボランティアの方々には、この紙面を借りて御礼申し上げる。

今回の試験の実施・管理上の特徴は、以下の通り。

1. 会場の上智大学で初めて実施すること
2. 試験室がＦＥ3 教室、ＰＥ2 教室と多数であったこと
3. 遠方からのプロクター参加もお願いしたこと
4. フロアプロクターのサポートに2 名のフローティングプロクターをつけ、そのグループで約25 名の試験者を監視する体制にしたこと
5. 早期退室・トイレ誘導のプロクターのほとんどをアルバイトにしたこと
6. 受付場所をスペース確保の観点から5 ヶ所にしたこと

会場として上智大学を使用するのが初めてであったため、開場時刻のシフト、使用可能什器の手配、PE試験会場FE 試験会場試験室・受付場所の増設が必要となった。受付場所を5 ヶ所にしたために、混乱が生じてしまった。フロアプロクターのサポートに2 名のフローティングプロクターをつけ、そのグループで約25 名の試験者を監視する体制にしたことには理由がある。フロアプロクターにフローティングプロクターの教育をお願いすることと試験室での監視活動を頻繁にするためである。フロアプロクターは受験者の試験責任者という要職であるが、高齢化？が進み人材不足のため今回の処置となった。まｔＮＣＥＥＳからは再三プロクターが十分試験中の監視活動を行っていないという指摘があり、3 名体制とした。その為にはプロクターの人数確保が不十分であってはならず、遠方からのプロクター参加をお願いする運びとなったわけである。早期退室・トイレ誘導の

プロクターのほとんどをアルバイトにした理由もプロクター人数確保の方法であった。

今回、課題もいくつか提示された。

1. フード付きスウェットの着用
2. 試験室温度の管理
3. 控え室の容量
4. 事前準備アイテムの不足
5. 受付方法の改善
6. ＮＣＥＥＳとの事務連絡の改善

共通意識を持っていなかったために生じた課題もあるが、今後の試験運営に役立てたいと思う。ボランティアの方々からは、「参加してよかった」、「こんなに大変だとは・・・」などと意見を頂いている。

『百聞は一見にしかず』である、是非ボランティア参加を！